

第一回例会（研修・文化委員会担当）

没後 50 年 神田日勝「大地への筆触」

ここで描く、ここで生きる 鑑賞会

11月1日、コロナの収束もまだ見えない状況の中、出来ることはしましよと鑑賞会を実施しました。NHK 連続テレビ小説

『なつぞら』の山田天陽のモチーフとなった画家・神田日勝の回顧展です。参加者は7名でした。

日勝は1945年7歳のとき、家族で鹿追町に移住し、牛や馬の世話、農作業をしながら絵を描き続け、32歳で亡くなりました。学芸員の「見どころトーク」を聞いてからそれぞれのペースで鑑賞しました。

作品は大地を耕すかのように、力強い筆致で描かれていて、日勝の喜びや悲しみ、誇りと苦悩がにじみ出ているようでした。また、デッサン帳や蔵書、日勝に強い影響を与えた同時代の作家の作品も展示されていて、新しい日勝像を感じました。

鑑賞前に美術館近くのレストランで食事をしながら、会員の方々と久しぶりにお会いして、新会員も参加し話に花が咲き、食事も美味しくとても良い時間を過ごしました。〈関川 正美 記〉



